

全国牛乳容器環境協議会
第31回-通常総会 次第

2022年 4月21日(木)

15:00 ～ 16:00

乳業会館 3階 C会議室

(zoomによるオンライン併用)

1. 開会
2. 出席人員報告
3. 会長挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人選出
6. 議事
 - 1) 議決事項
 - 【 第1号議案 】 2021年度-事業報告 (案)
 - 【 第2号議案 】 2021年度-収支決算 及び 剰余金処分 (案)
 - 【 第3号議案 】 2022年度-事業計画 及び 予算 (案)
 - 2) 報告事項
 - 【 報告事項1 】 2022年度-理事会、四半期-運営委員会、次回-通常総会 日程
 - 【 報告事項2 】 飲料用 紙容器リサイクル協議会・3R推進団体連絡会 活動報告
 - 【 報告事項3 】 役員の交代
7. その他
8. 閉会

以 上

第31回 通常総会

議 題

2022年 4月21日(木)

乳業会館 3階

全国牛乳容器環境協議会

2021年度-事業活動報告

概況

2020年度の紙パック回収率は38.8%、使用済み紙パックの回収率は29.8%とそれぞれ前年より2.6ポイント減少しました。飲食店等だけが前年並みだったものの、店頭回収、行政回収、集団回収、学校給食の回収がいずれも前年割れする結果となりました。特に、集団回収と学校給食で大きく落ち込みました。2020年の特異的な事象として、新型コロナウイルス感染症の拡大があり、学校給食での回収が停止や、集団回収の活動低下があったと考えられます。

一方で、紙パックの回収率は2014年度の44.7%をピークに低下傾向が止まりません。こうした中期的な低下傾向に対しては、「プラン2025」で対策案はまとめているものの、効果の検証を行いながら実効性のある形で展開していくことが必要です。

「プラン2025」初年度である2021年度は、活動の3本柱について、それぞれこれまで「できていなかったこと」に取り組みました。

「回収率向上のための啓発」においては、オンラインセッションやネット記事の配信により、これまで情報を伝えきれなかった新たな層への情報伝達を試みました。施行錯誤しながら、より効果の高い情報発信の方法を模索していきます。

「紙パックの回収・再生インフラの整備支援」においては、これまで容環協の活動の中で、情報が十分に整理されてきていなかったことから、まず現状の把握に努めました。2021年度は「紙パック回収意向のある回収問屋リスト」「自治体回収区分調査」「自治体別回収量調査」を実施し、それぞれを地図上に展開しました。また、店頭回収の状況については、実態を把握するための手段として「みんなでつくる回収拠点マップ（仮称）」の開発を進め、これまで感覚的に、また断片的にしかとらえられていなかった各種のデータを可視化し、課題を捉えやすくしました。

「次世代を担う子どもたちの環境マインド向上」においては、「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」の改訂や川崎市および川崎市NPOと協力した推進活動（今年度は「回収率向上のための啓発」として実施）、工作コンクールなどを実施しました。学乳パックの回収率の低下が止まらない状況になってきており、来年度以降これまでの経験をもとに見直しを進めていきます。



※ プラン 2025 行動計画順に記載

1. 紙パックリサイクルの現状把握。ステークホルダーとのコミュニケーション

1.1 基本調査

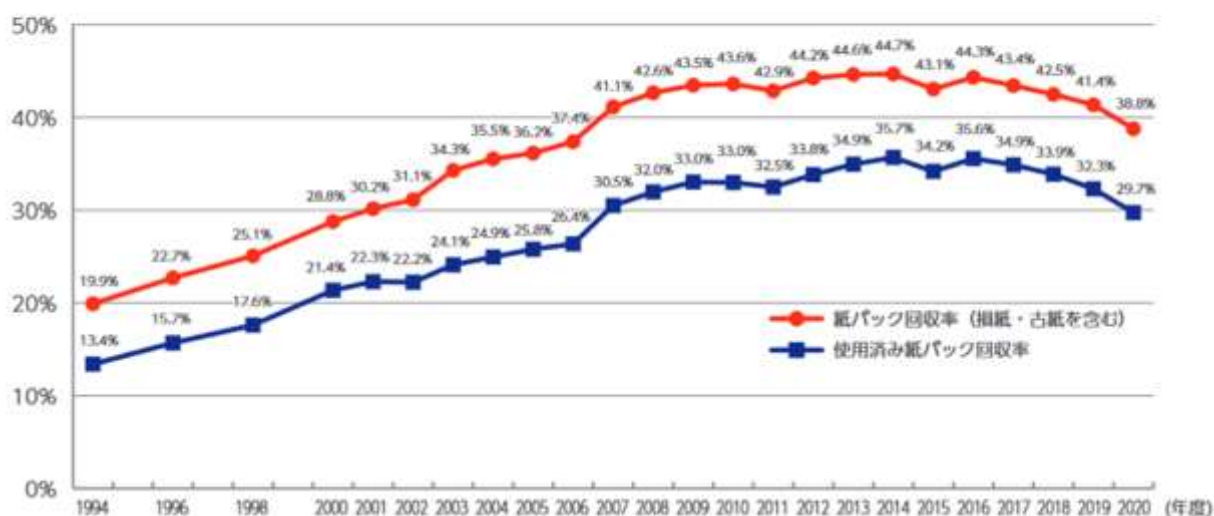
基本調査を実施し、3月9日に調査報告会を実施しました。昨年までは(株)エコイプスに本調査を委託していましたが、(株)エコイプスの会社清算により、本年度より(株)ダイナックス都市環境研究所に委託先を変更しました。結果は以下の通りです。

2020年度 回収率

(1) 紙パック回収率(損紙・古紙を含む) **38.8%** (2019年度 41.4%)
 =国内紙パック回収量(84.1千トン) / 飲料用紙パック原紙使用量(216.9千トン)

(2) 使用済み紙パック回収率 **29.7%** (2019年度 32.3%)
 =使用済み紙パック回収量(56.1千トン) / 飲料用紙パック出荷量(188.7千トン)

●紙パック回収率の推移



1.2 容環協活動の評価

容環協活動の3本柱について活動の指標を決め、指標の改善を目指すこととしています。「次世代を担う子どもたちの環境マインド向上」については学乳パックの回収率を指標とすることとしましたが、残りの2つについては本年度調査等で得た関連データを踏まえ、来年度以降で検討して行きます。

1.3 意見交換会

例年実施している飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会を2022年3月にオンラインで開催し、農林水産省 食品ロス・リサイクル推進室、牛乳乳製品課、経済産業省 資源循環経済課、素材産業課、環境省リサイクル推進室の3省5課からの出席を含め、自治体、市民団体、古紙関係者、紙パック関係者、乳業者など83

名の参加をいただきました。オンラインでは議論に参加しにくい点もあることから、投票機能等を活用した意見交換会としました。示唆のあるご意見をいただけるよう今後も改善を図っていきます。

1.4 再生紙メーカーなどバリューチェーンとの意見交換

例年は再生紙会社の多い富士市にて開催していましたが、コロナ禍もあり、オンラインにて再生紙メーカー4社に個別ヒアリングを実施しました。回収物への要求事項などを確認しました。

1.5 講演会・勉強会

専門委員の知識向上を図るため、これまで事務局長と常務理事の経験のある後藤顧問を講師として飲料用紙容器の置かれている状況や課題についてオンライン勉強会を実施しました。

2 回収率向上のための啓発活動

2.1 イベントへの出展や参加、支援

(1) エコプロ2021

◇ 開催日：12月8日～10日

◇ 開催場所：東京ビッグサイト 東3ホール

◇ 来場者：

東京ビッグサイトの来場者数54,885人(2019年度147,653人)、

容環協エリアへのアクセス者数1,135人(2019年度1,718人 パネルのみだと814人)、

新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に判断したうえで、12月8日～10日のエコプロ2021へ参加しました。対人接触をできるだけ減らすため、従来実施していた手開き実演や紙すきなどは行わず、動画等での説明をした上で質問等によりのみ個別対応するということとしました。

(2) エコスタディールームOnline

◇ 開催日：11月25日～12月17日

◇ 開催場所：オンライン展示

◇ 来場者：ユーザー数760人

ページビュー数1599

啓発のためのパネルを横画像化し、それらをスライドショーとして動画化しました。



横型パネル用画像

2.2 デジタルメディアの活用

①容環協ホームページ

これまで容環協ホームページはPCでのアクセスを前提としたページ構成となっていました。4月に接続機器の画面サイズに応じてページレイアウトが変わるレスポンシブデザインに変更し、スマートフォンでも見やすい仕様に変更しました。



新スマホ用ページ



新 PC 用ページ

合わせて全体のデザインもリニューアルしました。

②インターネット記事配信

これまでの回収啓発で手薄となっていた、20代から30代の層に向けた情報発信の方法として、SNSなどのインターネットメディアの活用を模索しました。2月にネット記事「紙パックをリサイクルに出す女性 同僚の『ひと言』に、驚愕」をトライアルとしてインターネットで記事を配信しました。約50万件のアクセスがあり、読んでいただきました。

今後、Twitter等の他のメディア活用も検討していきます。



2.3 各種メディアの活用

八王子市、三鷹市のごみ袋外装への広告を掲載しました。

またこれまで使用しているパンフレット類の内容が長期にわたり更新されていないことから啓発内容の見直しを進めています。本年度は「学乳パックリサイクルの手引き」を改訂しました。学校からリサイクルができないとして挙げる理由は限定されていることから、それぞれの理由に対する考え方を示すとともに、



2. 4環境リーダーの発掘や活動支援

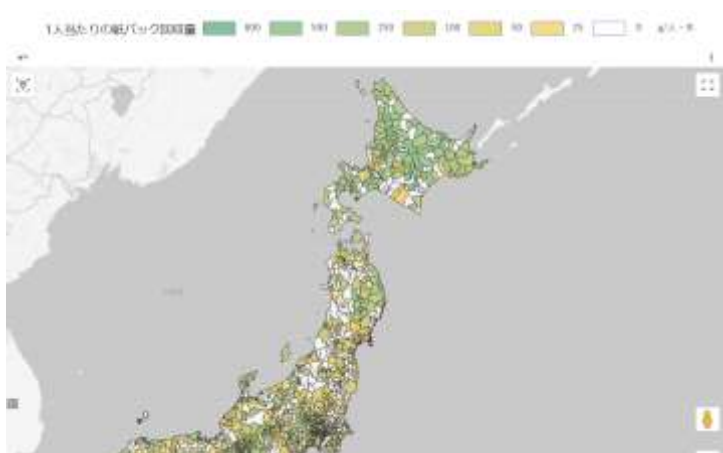
これまで容環協は環境に関心の高い高年齢層と子どもを主な対象とした啓発活動を行ってきましたが、それ以外の若者層との対話ができているという反省もあり、一般から参加募集した「容器包装は本当に必要？事業者とつくる、エシカルな容器の未来」と題したオンラインセッションを8/26に開催しました。大学生等の参加など新しい出会いもありましたが、当初期待したほどの応募者が集まらなかったことと、セッション後のフォローが十分にできなかったことが反省点として挙げられました。



3 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

3.1 回収場所の情報整備と提供

まず、「紙パック回収意向のある回収問屋調査」により紙パック回収意向のある回収問屋リストを作成し、地図上に展開しました。古紙全体の中で一部に限定される紙パックを回収にご協力いただける業者様の情報を整備することで「集めたけれどもどこに収集していただけないのかかわからない」といったお問い合わせに対する回答にも使用していけると考えています。また、紙パック回収意向のある中でも小容量パックを収集していないとするとところが多くあることもわかりました。



「自治体ごとの行政回収量調査」は自治体ごとの分別回収、拠点回収、および集団回収の量を調査し、その合計量を地図上に展開しました。自治体による行政回収への取り組み度合いを示す指標となりえると思われます。この量には全体の約半分を占める店頭回収量が含まれていないことから、地域ごとの回収ポテンシャルを示すものにはなっていませんが、今後店頭回収の情報も収集していくことで地域ごとの課題も明らかにできるものと考えています。

「みんなでつくる回収拠点マップ（仮称）」は約半分を占める店頭回収の状況について情報をほとんど持ち合わせていないことから、情報収集の仕組みを構築することとしました。郵便ポストの位置情報を収集する仕組みとして「ポストマップ」という仕組みをベースに資源回収拠点マップとして作成しました。2022年度にはリリースして情報収集を進めていきます。



3.2 回収力の弱い地域の回収ルート構築支援

川崎市の市民NPOからの声掛けにより、川崎市環境局、教育委員会と一体となった小学校のリサイクル推進活動に協力し、計9校で出前授業を実施しました。子どもたちが自ら考える形の授業としたことから、納得感も高かったと思われます。

地域会議は新型コロナウイルス感染症拡大の状況が見通せないことから、本年度は開催を見送りとしました。

回収ボックスの配布の今年度実績（2月まで）は270個でした。

5月20日	川崎市立川崎高校附属中学校	中学校3年生118名
6月15日	川崎市立平間小学校	6年生2クラス69名
7月12日	川崎市立虹ヶ丘小学校	4年生36名
8月25日	荒川区教育研究会研修会	荒川区給食・食育部20名
10月28日	川崎市生涯教育講座	かわさき市民アカデミー 市民26名
11月5日	横浜市立上星川小学校	6年生29名
11月26日	川崎市立西菅小学校	5年生1クラス32名
12月6日	川崎市立小田小学校	5年生3クラス111名
12月8日	川崎市立南河原小学校	5年生2クラス72名
1月17日	川崎市立鷺沼小学校	5年生4クラス156名
1月21日	川崎市立宮崎小学校	5年生5クラス179名

3.3 ラミネートプラスチックリサイクルの調査・研究

紙パックにはラミネートプラスチックが使用されていることから、プラスチック資源循環促進法が施行されることになっている現況を鑑み、情報収集に努めています。

4 次世代を担う子供たちの環境マインド向上

4.1 環境教育活動

「牛乳パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」に協賛しました（実施主体は「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」実行委員会）。本コンクールも21回目となり、従前に倣って継続してきています。基本調査によると工作、まな板などに再活用され捨てられるとされる量が約10千トンとの調査結果もあり、工作を推奨することが目標としている「回収率」と相反することを推奨している一面もある一方、インターネット上などには多くの再活用事例が紹介されているなど「再活用」も有効利用の一つであるとの意見もあるところです。



また、ここ数年の学乳パックの回収率の低下は大きくなっており、回収率回復に向かわせるためのツールとしての役割と位置づけていきます。

	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014
応募作品数（点）	2,338	1,670	2,316	2,353	2,610	3,089	2,828	2,720
参加学校数	210	196	239	240	270	292	318	339

4.2 学乳パックリサイクルの促進

3.2の項で実施。

5 活動への理解促進、活動の公表と評価

5.1 年次報告書等による容環協活動の公表

「紙パックリサイクル 年次報告書」は、2021年 1月に発行しました。



以上

2021年度 会計収支決算書

自 2021年4月 1日
至 2022年3月31日

〔収入の部〕				(単位:円)
科 目	予算額	決算額	差引	摘 要
繰越金	44,686,526	—	—	
拠 出 金	66,852,000	67,142,052	−290,052	過年度請求漏れ 289,500円 過年度手数料未納 552円
その他事業収入	3,400,000	3,267,595	132,405	牛乳紙パックで遊ぶ学ぶコン クール協賛金(乳協) 1,000千円 (株)明治環境キャンペーン 2,267,595円
雑 収 入	0	0	0	
収入合計	70,252,000	70,409,647	−157,647	
〔支出の部〕				
事業費	62,100,000	49,598,802	12,501,198	
事務費	13,500,000	12,389,270	1,110,730	
支出合計	75,600,000	61,988,072	13,611,928	
差引収支差額	−5,348,000	8,421,575	−13,769,575	
剰余金	—	53,108,101	—	(通常総会にて審議)

（単位：円）

〔支出の部 ①事業費〕

科 目	予算額	決算額	差引	摘 要
事 業 費	62,100,000	49,598,802	12,501,198	
1. 普及・啓発 事業費	25,000,000	17,942,449	7,057,551	1. 消費者啓発費 ・エコプロ出展 （オンライン展含む） ・年次報告書発行 ・自治体ごみ袋広告 ・ホームページ改修 （スマホ対応化） 2. 小中学生啓発費 ・「遊ぶ・学ぶ」コンクール 協賛（乳協分含む） ・出前授業（川崎市と連携） 3. 共通啓発費 ・オンラインコンテンツ作成
2. 回収促進 事業費	6,400,000	3,448,307	2,951,693	1. 地域回収率向上事業 ・リサイクル講習会 （荒川区、川崎市） 2. 回収拠点拡大事業 ・回収ボックス製作、配付、管理 ・ステークホルダー意見交換 3. 組織強化事業 ・地域環境リーダー発掘 ・地域環境イベント支援
3. 3R推進団体 連絡会事業費	2,000,000	1,746,000	254,000	飲料用紙容器リサイクル協議会 負担金
4. NPO支援 事業費	3,050,000	3,274,589	-224,589	1. 全国パック連賛助会費 2. リサイクル製品利用促進 （ボックスティッシュ製作等）
5. 企画・調査 事業費	17,050,000	14,820,020	2,229,980	1. 飲料用紙容器リサイクルの現状と 動向に関する基本調査 2. 紙パックの回収実態に関する 基本調査（全原連） 3. 自治体（市区町村）紙パック リサイクル情報整理 4. 店頭回収における紙パック分 別区分・回収ルート調査
6. 旅 費	800,000	174,667	625,333	出張・外勤旅費
7. 会 議 費	600,000	442,770	157,230	専門委員会会場費他
8. 交 際 費	200,000	0	200,000	2021年度実績なし
9. プラン2025 対応費	7,000,000	7,750,000	-750,000	1. プラン2025遂行に係る業務委 託（顧問委嘱） 2. 回収拠点マップシステム作成

〔支 出 の 部 ②事務費〕

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要
事 務 費	13,500,000	12,389,270	1,110,730	
委 託 費	11,000,000	10,775,525	224,475	1. (一社)日本乳業協会委託費 2. 派遣社員
通信運搬費	700,000	444,256	255,744	1. 郵便・宅配便等通信費 2. メールアドレス管理委託費
印刷製本費	110,000	27,170	82,830	2. コピー機使用料等
旅費交通費	50,000	0	50,000	2021年度実績なし
消 耗 品 費	80,000	54,859	25,141	コピー用紙、文具類、名刺等
備 品 費	20,000	14,990	5,010	スピーカーマイク、三脚
手 数 料	120,000	113,740	6,260	振込手数料・web手数料、 システム使用料
雑 費	50,000	0	50,000	2021年度実績なし
広告宣伝費	100,000	71,500	28,500	業界誌広告掲載費 2件
諸 会 費	210,000	210,000	0	1. 集めて使うリサイクル協会 2. 3R活動推進フォーラム 3. 東京都リサイクル事業協会
交 際 費	20,000	0	20,000	2021年度実績なし
租 税 公 課	40,000	31,800	8,200	収入印紙代
予 備 費	1,000,000	645,430	354,570	共通予備費および オンラインツール購入費用

貸 借 対 照 表

2022年3月31日現在

〔資産の部〕

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
流動資産計	53,108,101	
現金	52,953	
普通預金	49,034,928	預入先:みずほ銀行麹町支店
貯蔵品	4,020,220	書籍「紙パック宣言」、オリジナルBOXティッシュ、回収ボックス (通常サイズ、1/2サイズ)、オリジナルトイレトペーパー
固定資産計	0	
資 産 合 計	53,108,101	(A)

〔負債の部〕

科 目	金 額	摘 要
流動負債計	0	
預かり金	0	
固定負債計	0	
負 債 合 計	0	(B)

〔正味財産の部〕

正味財産合計	53,108,101	(A)-(B)
--------	------------	---------

負債及び正味財産合計	53,108,101	
------------	------------	--

上記の通りであります。

監査の結果、正確なることを認めます。

2022年4月8日

監 事

木下善文 

監 事

今井哲哉 

2021年度 剰余金処分（案）

2021年度 剰余金	金 額	53,108,101円
------------	-----	-------------

これを次の通り処分する。

2022年度 繰越金	金 額	53,108,101円
------------	-----	-------------

以 上

2022年度-事業計画及び 収支予算(案)

回収率 50%以上 を目指す自主行動計画「プラン2025」5つの柱に沿った2年目の活動を推進していきます。

【1】事業収入

2021年は新型コロナウイルス感染症からの回復を想定し、コロナ以前の2019年度の活動をベースとした予算設定としましたが、コロナからの回復が遅れ予定通りの活動が出来なかったため予算が未消化となり剰余金が多く発生しました。また2022年度の拠出金は前年比300万円増（104.6%）となりました。

【2】事業計画

（1）前年度の事業計画からの変更に及ぼす事項

①予算策定の基本方針

例年、事業収入にあわせた事業支出計画としていますが、2021年度の剰余金が多く発生したことから、2022年度は2021年度未消化分(13百万円)も活用した事業計画とします。

②新型コロナウイルス感染症の影響

2020～2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くの対面イベントは中止もしくは縮小となりました。2022年度以降は、コロナ感染症による生活様式の変化を見据え、対面を前提としない活動に移行を図っていきます。

（2）2022年度事業計画

①紙パッキリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

i) 従来通り、紙パック回収率の調査を実施します。回収率定義について「他の古紙」分類で回収されている紙パック量の回収率への算入を検討します。また、工作やまな板に再活用されている使用済み紙パックの取り扱いについても検討して行きます。

ii) ステークホルダーとの意見交換については、必要に応じ実施します。

②回収率向上のための啓発活動

i) 20代から30代のリサイクルへの協力度が低いという調査結果を基に、こうした層をターゲットにオンライン記事の配信やのSNSの活用による情報発信を模索します。環境イベントについてはエコプロ等には出展を計画しますが、動画を用いるなどの工夫により、感染症への対策を行いながら正しい情報が伝わるような工夫をしていきます。

ii) 回収の促進と表裏一体である再生商品の消費促進を目的に、紙パック再生品の紹介機会を増やしていきます。

iii) 地域課題への取組の一環として、会員内での紙パック回収についての課題共有を進めます。

③紙パックの回収・再生インフラの整備支援

回収インフラの状況を調査の一環として「みんなでつくる回収拠点マップ(仮称)」をリリースし、店頭回収の情報を一般市民から収集します。昨年までに実施した「古紙問屋回収意向調査」「自治体別回収区分調査」に加え、店頭回収の情報を収集し、地域ごとの、より正しい実態が把握できるようになると考えています。

④次世代を担う子供たちの環境マインド向上

「牛乳パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の募集にあわせ、全国約3万校に対し紙パックリサイクルの状況についてアンケートを行い、全国の小学校のリサイクル状況を把握します。使用済み紙パックの処理が納入事業者から学校に移行する中で、学校における紙パックのリサイクル率の低下が認められていますので、環境教育視点での学校側へのアプローチなど打開策を検討して行きます。地域の行政等から紙パック回収増に結び付く協力要請があった場合には、できるだけ協力していきます。

⑤活動の理解促進、活動の公表と評価

i) 活動をより分かりやすく公表し、意見をいただくことで活動の改善に役立てていきます。

(3) その他

①後藤顧問との委託契約

後藤顧問と顧問委嘱を継続した上でプラン2025新規事業の立ち上げ業務について委託契約を締結することとします。

②予算管理

本年よりプラン2025アクションプランの事業ごとに予算を紐づけ、予算の進捗がより見えやすい形としました。

以上

2022年度 予算(案)

収入の部

(単位:円)

科 目	2022年度予算(案)		2021年度計画		前年度差
繰越金	53,108,101	2020決算の剰余金が全額繰り越しとなった場合の額	44,686,526		-
拠出金	69,897,000	前年比104. 6%	66,852,000		3,045,000
(うち過年度拠出金)	0		(290,052)		-
その他事業収入	3,400,000	前年並みとする	3,400,000		0
雑収入	0		0		0
当年度収入合計	73,297,000		70,252,000		3,045,000
収入合計	126,405,101		114,938,526		-

支出の部

科 目		内 訳		2022年度予算(案)		2021年度計画		前年度差
支出合計				86,020,000	(+10,420千円)	75,600,000		10,420,000
【1】事業費				73,470,000	(+11,370千円)	62,100,000	(▲2,204千円)	11,370,000
1. 普及啓発 事業費				27,500,000	(+2,500千円)	25,000,000	(▲175千円)	2,500,000
	①消費者啓発	・エコプロ		6,000,000	実開催(4小間開催)、オンライン併用 ABMB表彰移行 ▲2,000千円	8,000,000	▲200千円	▲2,000,000
		・自治体等環境イベント	エコライフフェアほか	500,000	エコライフ他2展出展、備品・視察費、輸送費等 ▲2,000千円	700,000	▲30千円	▲200,000
		・ホームページ拡充等		6,000,000	HP改修2,000、自治体広告50、メディア広告3,300等 +4,000千円	2,000,000	+150千円	4,000,000
		・年次報告書	英語版含む	4,000,000	年次報告書(減ページ分はダイジェスト版作成に充てる) ±0	4,000,000	▲550千円	0
	②小中学生啓発	・遊ぶ学ぶコンクール協賛	バック意匠含む	6,700,000	前年同額(ただしエコプロ計上の表彰式分を移行) +700千円	6,000,000	+300千円	700,000
		・出前授業	紙バック宣言配布含む	300,000	主に輸送費などの実費のみを計上 ±0	300,000	+40千円	0
③共通	・啓発冊子・チラシ類作成増刷	作成費 保管料運搬料	4,000,000	動画作成3,000、冊子改訂1,000 ±0	4,000,000	+115千円	0	
2. 回収促進 事業費				13,350,000	(+6,950千円)	6,400,000	(▲289千円)	6,950,000
	①地域回収率向上事業	・地域会議		500,000	会場費、ファンリテータ費 ▲200千円	700,000	+300千円	▲200,000
		・リサイクル講習会		0	出前授業と科目統合 ▲300千円	300,000	+40千円	▲300,000
	②回収拠点拡大事業	・回収ボックス製作、 配付、管理費	回収ボックス(ハーフ)	200,000	全在庫配布を目指す ±0	200,000	▲50千円	0
			回収ボックス(通常)	1,200,000	実績勘案300個強配布(@3672×400) ▲300千円	1,500,000	+885千円	▲300,000
			保管費、運搬費	900,000	保管費増加分を考慮 +250千円	650,000	+50千円	250,000
		・全国20事例集		50,000	20事例集は作成せず、年次報告書などの取材費用とする ±0	50,000	第5集作成準備費用	0
		・拠点拡大フォローアップ	回収拠点フォローアップ	2,500,000	出前授業と統合 回収拠点マップ管理費・スマホ化 +2,200千円	300,000	+370千円	2,200,000
			ステークホルダー 意見交換会 再生紙メーカー 情報交換	200,000	オンライン前提(ハイブリッド開催も想定) ▲200千円	400,000	前年同額を計上	▲200,000
	③組織強化事業	・支部組織強化対策	トイレットペーパー 運搬費・保管費	5,000,000	全会員、学校、回収マップ等で大規模に配布 +4,500千円	500,000	+50千円	4,500,000
			アンケート集計他	2,000,000	地域環境リーダー活動支援 新規対応 +1,000千円	1,000,000	▲150千円	1,000,000
			組成調査、 強化研究会他	300,000	総務委員自治体訪問、広報委員取材費補助など ±0	300,000	▲2,284千円	0
・回収率アップ調査費								
3. 3R促進 事業費				1,800,000	(▲200千円)	2,000,000	(▲10千円)	▲200,000
	①飲紙協		飲紙協負担金	1,800,000	前年度実績勘案(飲紙協負担金算出方法変更) ▲200千円	2,000,000	▲10千円	▲200,000
4. NPO等支援 事業費 (市民・行政・事 業者の連携強 化)				4,070,000	(+1,020千円)	3,050,000	(+700千円)	1,020,000
	①賛助会費	・全国バック連、バックマーク促進協		170,000	P連、Rマーク(他組織の会費は事務費で計上) ▲30千円	200,000	実績勘案	▲30,000
	②全国バック連	・回収BOX管理費		1,650,000	業者変更回収ボックスに加え、DVD、冊子の総合管理 +1,000千円	650,000	実績勘案	1,000,000
		・環の縁結びF協賛金		0	協賛しない(開催見込無し) ±0	0	協賛金および諸費用	0
	③リサイクル製品促進	・ボックスティッシュ製作、 配付、管理費	ボックスティッシュ	2,050,000	実績勘案 +50千円	2,000,000	+650千円	50,000
運搬費、保管費			200,000	実績勘案 ±0	200,000	+50千円	0	
5. 企画・調査 事業費				18,550,000	(+1,500千円)	17,050,000	(▲2,430千円)	1,500,000
	①基本調査			12,000,000	前年同額を計上 ±0	12,000,000	実績勘案	0
	②行動計画関連調査			5,500,000	補完調査2,000、活動評価2,000、ABMB学校調査1,500 +1,500千円	4,000,000	+1,100千円	1,500,000
	③古紙原料問屋調査			1,000,000	実績勘案 ±0	1,000,000	実績勘案	0
	④海外視察調査			0	海外視察予定なし ±0	0	▲3,500千円	0
	⑤国際連携費	・諸外国情報交換他		50,000	前年同額を計上 ±0	50,000	▲30千円	0
6. 旅費交通費 上記1-5の事業に関わる旅費				500,000	(▲300千円) 市町村訪問、各種調査など	800,000	(+100千円)	▲300,000
7. 会議費 上記1-5の事業に関わる会議費(会場費等)				600,000	(±0) 実績勘案	600,000	(▲100千円)	0
8. 交際費 上記1-5の事業に関わる交際費				100,000	(▲100千円) 2021実績なしのため半減	200,000	(±0) 実績勘案	▲100,000
9. プラン 2025対応費				7,000,000	(±0)	7,000,000	-	-
	①プラン2025遂行のための委託費用			5,000,000	プラン20025遂行に係る業務委託費(継続) ±0	5,000,000	前年同額を計上	0
	②予備費			2,000,000	年度またぎ事業、期中事業対応(四半期委員会承認前提) ±0	2,000,000	前年同額を計上	0
				12,550,000	(▲950千円)	13,500,000	(±0)	▲950,000
【2】事務費	①事務経費			12,500,000	前年同額を計上 ±0	12,500,000	前年同額を計上	0
	②予備費			50,000	従来の額に戻す ▲950千円	1,000,000	前年同額を計上	▲950,000
当年度収入合計-支出合計				▲12,723,000	※前年度未消化予算 13,769千円を事業費として使用する	▲5,348,000		
剰余金				40,385,101	見込	39,338,526	2021年度剰余金⇒	53,108,101

取扱注意

2022年度 予算（案） plan2025準拠

収入の部

(単位：円)

科 目	2022年度予算案	
繰越金(見込)	53,108,101	
うち現預金	49,087,881	
うち貯蔵品(書籍・再生品)	4,020,220	
拠出金	69,897,000	
(うち過年度拠出金)	0	
その他事業収入（負担金収入含む）	3,400,000	前年並みとする
雑収入	0	
当年度収入合計	73,297,000	

支出の部

科 目	内 訳	Plan2025 行動計画	2022年度予算案	
支出合計			86,020,000	84,600,000
【1】事業費			70,550,000	69,130,000
1. リサイクル現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション			16,700,000	
	基本調査	1.1	12,000,000	前年同額を計上 ± 0
	補完調査	1.1	2,000,000	
	活動評価調査	1.2	2,000,000	
	ステークホルダー意見交換会	1.3	200,000	オンライン前提（ハイブリッド開催も想定） ▲200千円
	再生紙メーカー等情報交換	1.4	500,000	オンライン前提（富士市での開催再開も想定）
2. 回収率向上のための啓発			18,500,000	25,550,000
	エコプロ	2.1	6,000,000	実開催（4小間開催）、オンライン併用 ABMB表彰移行 ▲2,000千円
	自治体等環境イベント(エコライフ他	2.1	500,000	エコライフ他2展出展、備品・視察費、輸送費等 ▲2,000千円
	ホームページ改修	2.2	2,000,000	±0千円
	メディア広告	2.2	3,500,000	+ 3,500千円
	動画作成	2.2	3,000,000	± 0
	冊子作成改訂	2.3	1,000,000	± 0
	自治体広告	2.3	500,000	+5,00千円
	地域環境リーダー活動支援	2.4	2,000,000	地域環境リーダー活動支援 新規対応 +1,000千円
	回収ボックス（通常サイズ）製作	2.5	0	在庫あるため製作を見込まず
	ボックスティッシュ製作	2.5	2,050,000	実績勘案 +50千円
	トイレットペーパー製作	2.5	5,000,000	全会員、学校、回収マップ等で大規模に配布 +4,500千円
3. 回収・再生インフラの整備支援			4,000,000	
	回収拠点フォローアップ	3.1	2,500,000	出前授業と科目統合 ポストマップ管理費 +2,200千円
	古紙原料問屋調査	3.1	1,000,000	実績勘案 ± 0
	地域会議	3.2	500,000	会場費、ファシリテータ費 ▲200千円
4. 子どもたちの環境マインド醸成			8,480,000	
	遊ぶ学ぶコンクール協賛	4.1	6,700,000	前年同額（エコプロ計上の表形式分を移行） +700千円
	出前授業等	4.1	280,000	
	学校調査	4.2	1,500,000	
5. 活動への理解促進、公表と評価	年次報告書	5.1	4,050,000	取材費5万円を含む
6. 事業共通				
6. 1 飲紙協負担金		飲紙協負担金	1,800,000	前年度実績勘案（飲紙協負担金算出方法変更） ▲200千円
6. 2 プラン2025対応費			7,000,000	
	プラン2025遂行委託 プラン2025予備費	P2025対応費 P2025対応費 予備費	5,000,000 2,000,000	プラン20025遂行に係る業務委託費（継続） ± 0 年度またぎ事業、期中事業対応（四半期委員会承認前提） ± 0
7. 旅費交通費	上記事業に関わる旅費交通費		800,000	専門委員の取材等補助費用30万円含む ± 0円
8. 会議費	上記事業に関わる会議費		600,000	(± 0) 実績勘案
9. 交際費	上記事業に関わる交際費		150,000	諸外国情報交換含む
【2】事務費			15,470,000	+1970千円（従来の事業費のうち、運賃保管料、業務管理費、団体会費を事務費とする）
1. 事務経費			15,420,000	再生品運賃保管料,回収ボックス管理費、団体会費含む
2. 予備費			50,000	従来の額に戻す ▲950千円
当年度 現預金残			37,784,881	37,784,881

貯蔵品に振替



●再生品等払出実績 (運賃保管料は事務費へ)			8,470,000	
	紙バック宣言	4.1	20,000	
	回収ボックス（ハーフサイズ）	2.5	200,000	全在庫配布を目指す ± 0
	回収ボックス（通常サイズ）	2.5	1,200,000	実績勘案300個強配布（@3672×400） ▲300千円
	ボックスティッシュ	2.5	2,050,000	実績勘案 +50千円
	トイレットペーパー	2.5	5,000,000	全会員、学校、回収マップ等で大規模に配布 +4,500千円
当年度 貯蔵品残			2,600,220	

剰余金（見込）	40,385,101
---------	------------

プラン2025アクションプラン（2022年度）

行動計画の目的	2022年度予算	新規 取組	専門 委員会	2022年度実施項目	目的・活動内容 A：必ず実施（内容がほぼ確定している） B：できるだけ実施（内容の検討が必要） C：できたら実施（アイデアレベル）
1. 紙パックリサイクルの現状把握。 ステークホルダとのコミュニケーション	16,700,000				ステークホルダーの意見を聞くことなどを通し、正しく実態を把握する
1.1 基本調査	14,000,000		総務	紙パック回収率調査	(A) ダイナックス都市環境研究所に基本調査を委託する。 11月中旬までに回収率を算定、12月に経団連報告、3月に基本調査報告書納品 成果物として基本調査報告書および概要版を年度内に受領
		○	総務	回収率の定義見直し	(A) 回収率の考え方の見直しについて検討し、必要に応じ回収率定義を改訂する。 ①他の古紙区分で回収・リサイクルされる量の回収率での扱い方について（回収量に加えるか） ②工作、まな板などに再活用の方について取り纏める（以下の選択肢）。 ・「再活用」については触れないでおく ・古紙量を加えた「有効利用率」としての提示する ・回収率分母から差し引いた回収率とする （経産省から定義の見直しは行って良いとの確認済）
1.2 容環協活動の評価	2,000,000		総務	活動2、3、4に関する目標とする活動指標を測定する。	(B) 活動2の評価指標である「紙パックリサイクルを意識して行動する人の比率を高める」の評価方法を定め評価し、またその評価指標を高めるためのキーフアクタを特定し、活動2施策への展開を図る。 (B) 活動3については、店頭回収マップの店舗数、自治体回収区分や回収問屋の分布と地域の回収量の相関について検討していく。 (A) 活動4については基本調査で算定される学乳パック回収率を指標とする
1.3 意見交換会	200,000		総務	意見交換会の実施（年1回）	(B) 実のある意見交換会となるよう、意見交換会のあり方を検討する。 (B) 発言のあった主なステークホルダとは別途ヒアリングの機会を設け深堀する（オンラインを活用する）。
1.4 再生紙メーカーなどバリューチェーンとの意見交換	500,000		総務	再生紙メーカーとの意見交換	(A) 賛助会員企業各社と個別ヒアリングを実施し、紙パック再生における課題を把握する。オンラインを活用し実施する。2021年度未実施賛助会員を優先的に実施する。
1.5 講演会・勉強会			総務	専門委員向け勉強会・見学会の実施	(A) 紙パックリサイクルの現状と課題について専門委員が正しく理解するための、勉強会や再生紙工場見学会を実施する。 (C) 最新のリサイクル技術について識者による講演会を行う。他団体にも案内し交流のきっかけとする。
2 回収率向上のための啓発活動	26,970,000				市民・企業等へ紙パックの特性を正しく伝え、リサイクル行動へつなげる
2.1 イベントへの出展や参加、支援	6,000,000		イベント	エコプロ	(A) エコプロに出展する。 想定される来場者層にあった展示を行う。
	500,000		イベント	エコプロ以外のイベント（エコライフフェアなど）	(B) エコプロ以外のイベントについては出展目的等を考慮し都度出展可否を判断する。事務局および委員に過度の負担にならないよう目的に則した構成とする。
2.2 デジタルメディアの活用	2,000,000		広報（イベント）	ホームページ改修	(A) 容環協ホームページのアクセス数の増加のため、発信内容とサイトマップの見直しを行う。
	3,500,000	○	広報（イベント）	オンラインによる情報発信	(A) Z世代をターゲットにし、ネット上での啓発広告記事を定期的に配信する。「2.2デジタルコンテンツ」や「3.1回収拠点マップ」と組み合わせた発信による相乗効果を狙う。 (B) Line, Twitter, Instagram, Facebookなど様々なデジタルメディアについて研究し、様々な情報発信方法についてトライアルをしていく。
	3,000,000		イベント（広報）	デジタルコンテンツの作成（動画、オンラインスタディなど）	(A) エコプロでのパネル説明員なしの展示を目指し、1分程度の短編の動画数本を作成する。 (B) 作成したコンテンツをエコプロだけでなく、オンライン展示会等など活用シーンの拡大を図る。
2.3 各種メディアの活用	1,000,000		広報	広報資料の新規作成・改訂	(A) 啓発冊子「紙パックリサイクルほんとはなし」（おとな向け）「もったいないものがたり」（こども向け）を改訂する。
	500,000		広報	紙パックへの環境メッセージ表示、ごみ袋等への広告掲載	(A) 会員各社へ環境メッセージの掲載を呼び掛ける (A) 自治体ごみ袋への広告掲載を行う。八王子、三鷹など既実施の継続 (B) その他の自治体ごみ袋、汎用ごみ袋への掲載も検討する
2.4環境リーダーの発掘や活動支援	2,000,000	○	支部組織	会員との課題共有	(B) 会員間での課題共有を行うため、会員内への情報発信を行う。 (B) 会員の活動事例を収集する。 (C) 会員の活動の支援のためのパッケージを作成する。
			支部組織	地域の地球環境リーダーの発掘、育成	(B) 地域等でリサイクル推進活動を行っている方との協力関係を構築する。容環協として何が支援できるかを検討する。 (B) 活動の支援のためのパッケージを作成する。 (C) 中高生をリーダーも検討する。
			支部組織	地域イベント	(B) パネルや再生トイレトペーパーを提供し、地域における活動を支援し、地域の啓発活動の核となる方との接点とする
2.5再生品の使用促進			広報	回収ボックス・啓発資料の提供	(A) 依頼をいただいた先に回収ボックスを提供する
使用 8,750,000（貯蔵品から） 制作 7,050,000（現金→貯蔵品）	8,470,000	○	総務	紙パック再生品の使用促進	これまで再生品を使用した経験のない（少ない）方に再生品の使用を促す。2.4の会員会社への情報共有、4.2の調査協力のお礼などに紙パック再生品を活用し、実際に手に取っていただくことで広く理解を得る。

プラン2025アクションプラン（2022年度）

行動計画の目的	2022年度予算	新規 取組	専門 委員会	2022年度実施項目	目的・活動内容 A：必ず実施（内容がほぼ確定している） B：できるだけ実施（内容の検討が必要） C：できたら実施（アイデアレベル）
3 紙パックの回収・再生インフラの整備支援	4,000,000				日本全国誰でもが紙パックをリサイクルできるルートの整備を支援する
3.1 回収場所の情報整備と提供	2,500,000		総務	集団回収・店頭回収場所調査	(A) 2021年に作成した「みんなでつくる回収拠点マップ（仮称）」をリリースし、市民に登録していただくためのプロモーションを行う (B) スマホ版を作成し、より登録しやすいものとする
	1,000,000		総務	区市町村別紙パック回収区分の見える化	(A) 2021年調査結果を基に、改善の方向性を探る（3.2へ）（改訂は基本調査の中で実施）
			総務	古紙問屋・再生紙メーカーリストの作成	(A) 2021年調査結果を基に、改善の方向性を探る（3.2へ）（改訂は基本調査の中で実施）
			総務	ラミネートボリの処理方法の検討	(B) ラミネートボリのリサイクルについて情報を収集し、ラミネートブラの処理の可能性を調査・研究する。
3.2 回収力の弱い地域の回収ルート構築支援	500,000		総務	地域課題への取組	(B) 3.1の結果を踏まえ、地域会議により回収力の弱い地域の課題を探り、改善を支援していく。 （千葉は学乳に絞って4にではどうか？） ターゲットとなる地域を洗い出す（回収インフラはあるが、回収が上がらないようなところ？）
4 次世代を担う子供たちの環境マインド向上	8,480,000				持続可能な回収力向上のため、子どもたちの紙パックへの理解を深める
4.1 環境教育活動	6,700,000		イベント	牛乳紙パックで「遊ぶ学ぶ」コンクール	(A) 「牛乳パックで遊ぶ学ぶコンクール」の回収率向上についての位置づけを明確にした上で実施する。リサイクルを意識したレギュレーションに変更する。 （工作など「再活用」については整理の必要あり）
	280,000		イベント	出前授業	(B) 回収力向上に結び付けられることを前提に、必要に応じ実施する。 (B) 負担減のためオンライン授業のプログラムを作成する（一方的なら動画化、双方向なら複数校を結ぶなどのアイデアを導入）
		3.1から移行	総務	地域における学乳回収課題の解決	(A) 昨年よりNPO、川崎市環境局、教育委員会との取組みを進め、川崎市小学校全校回収 (B) 千葉県は学乳事業者引き取りをやめたことをきっかけに停止した回収停止について地域会議等の対話の場を設け解決策を探り、改善を支援していく。 (B) 自治体の協力が得られるなど回収力向上に結び付けられる可能性が高いなどを前提に、他については個別に判断する。
			イベント・支部組織	オンライン講習会	(A) 資源循環全体に視野を広げた、小学生に受け入れられる啓発内容を再構築する。 (B) 2.2のオンラインコンテンツの活用を検討する。 (C) オンライン授業のパッケージ化、リサイクル学習サイトの構築を検討する。
4.2 学乳パックリサイクルの促進	1,500,000	○	総務	小学校回収状況調査	(A) 「牛乳パックで遊ぶ学ぶコンクール」募集と連動し、基本調査ではサンプリングで実施していた小学校の回収状況調査を全小学校対象に実施し、回収実施校をマップ化する。調査協力のお礼に再生トイレットペーパーをお送りし、実際の使用を通じ再生・リサイクルへの理解を促す。
5活動への理解促進、活動の公表と評価	4,050,000				活動をレビューするとともに、公表しステークホルダーの共感を得る
5.1 年次報告書等による容環協活動の公表	4,050,000		広報	年次報告書の作成	(A) 容環協の1年間の活動をまとめ公表する。外部ステークホルダーへの情報提供と課題の掘り起こしを行う。
6 その他（事務経費等）	25,820,000			1,800,000 飲紙協負担金 7,000,000 プラン2025対応費 1,550,000 旅費、会議費、交際費 15,470,000 事務費	
	86,020,000				

2022年度- 理事会、通常総会、四半期-運営委員会 日程

理事会・通常総会

開催日時	会議名	開催場所
2022年_4月21日(木) 14時	第95回-理事会 第31回-通常総会	乳業会館 3階 A会議室 乳業会館 3階 B/C会議室
2022年12月14日(水) 15時30分	第96回-理事会	乳業会館 3階 A会議室
2023年_3月15日(水) 15時30分	第97回-理事会	乳業会館 3階 C会議室
2023年_4月20日(木) 14時	第98回-理事会 第32回-通常総会 第99回-理事会	乳業会館 3階 A会議室 乳業会館 3階 B/C会議室

四半期-運営委員会

開催日時	会議名	開催場所
2022年_5月18日(水) 15時	第1四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室
2022年_8月24日(水) 15時	第2四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室
2022年11月16日(水) 15時	第3四半期-運営委員会	乳業会館 3階 A会議室
2023年_2月15日(水) 15時	第4四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室



容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2020
5 年間の取り組み成果と 2020 年度フォローアップ報告

2021 年 12 月

3 R 推進団体連絡会

ガラスびん 3 R 促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

目 次

I 自主行動計画 2020 5年間の取り組みの成果	1
1. 事業者自ら実践する3R行動計画の成果	2
1.1 リデュースの取り組み	3
1.2 リユースの取り組み	5
1.3 リサイクルの取り組み	6
1.4 普及・啓発活動の推進	8
2. 主体間の連携に資するための行動計画の成果	9
2.1 各主体との交流・意見交換	11
2.2 広報・啓発事業	14
2.3 調査・研究事業	16
3. 自主行動計画2025の策定・公表	17
II 団体別 2020 年度フォローアップ結果	19
1. ガラスびん3R促進協議会	20
2. PETボトルリサイクル推進協議会	26
3. 紙製容器包装リサイクル推進協議会	34
4. プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	38
5. スチール缶リサイクル協会	43
6. アルミ缶リサイクル協会	48
7. 飲料用紙容器リサイクル協議会	55
8. 段ボールリサイクル協議会	63

I 自主行動計画 2020 5年間の取り組みの成果

■ 3 R 推進団体連絡会とは

3 R 推進団体連絡会は、容器包装リサイクル法の対象である、ガラスびん、PET ボトル、紙製容器包装、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、飲料用紙容器、段ボールの 8 素材の容器包装の 3 R 推進に係る 8 団体により、2005 年 12 月に結成されました。

循環型社会の構築に寄与するため、容器包装リサイクル法にもとづく分別収集と再商品化をはじめ 3 R（リデュース・リユース・リサイクル）を一層効率的に推進するための事業を、広範に展開しています。

■ 自主行動計画の策定・実行の経緯

本連絡会は「容器包装 3 R 推進のための自主行動計画」に基づき、「事業者が自ら実践する容器包装 3 R の取り組み」と「消費者・NPO、自治体・行政など主体間の連携に資するための取り組み」を進めてきました。計画の取り組み内容や目標の見直しは 5 年ごとに行っており、2021 年 4 月には「容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2025」を公表しています。

また、取り組みの進捗状況は毎年度フォローアップし公表しています。本報告書は「容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2020」（以下、「自主行動計画 2020」と言います。）の最終年度にあたる 2020 年度実績のフォローアップ結果です。



2016 年からの 5 年間を振り返ると、気候変動や海洋ごみ問題といった環境問題の顕在化、SDGs（持続可能な開発目標）の社会的な浸透、そして 2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染症拡大など、世界的に見ても大きな動きがありました。国内の容器包装 3 R 関連では、プラスチック資源循環促進法の可決・成立（2021 年 6 月）に至る動向も大きなトピックスです。

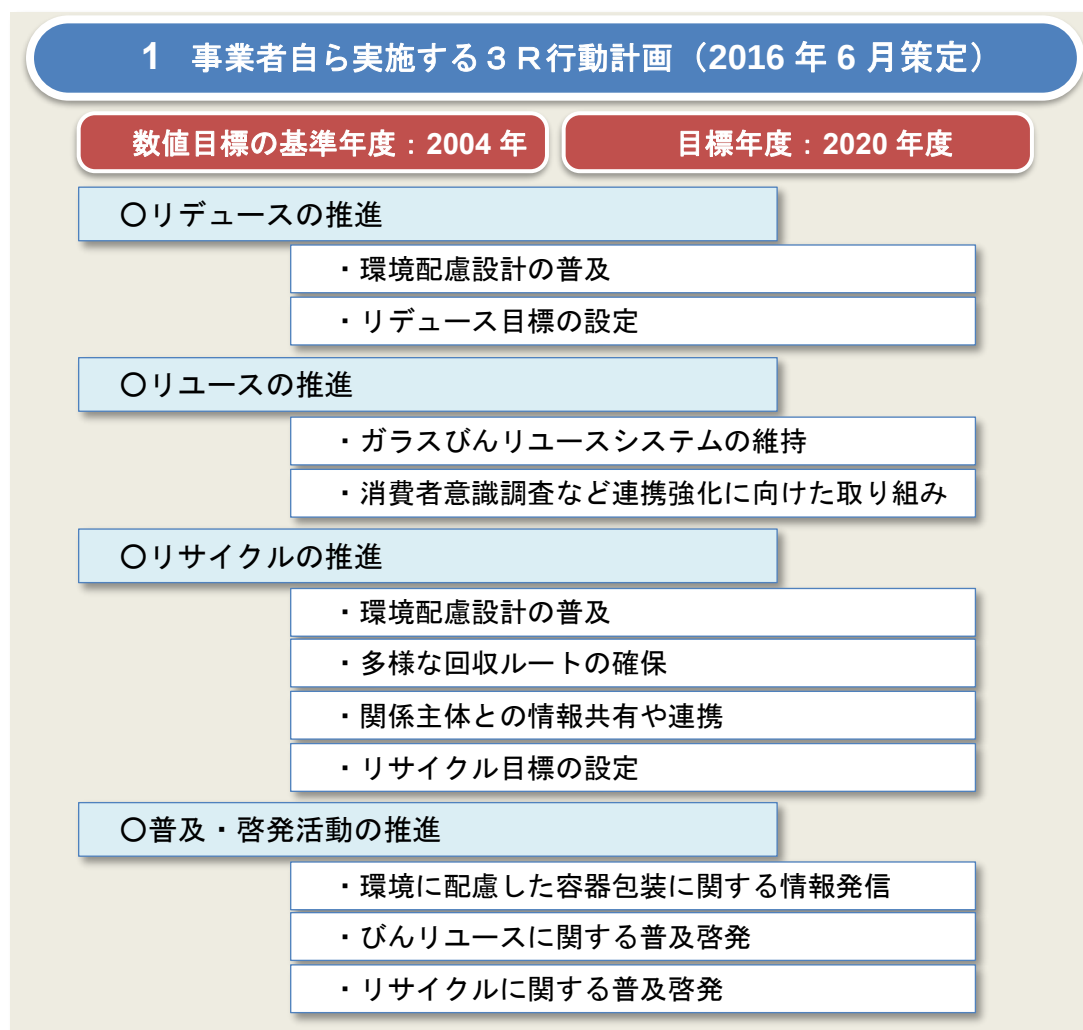
一方、当連絡会においては自主行動計画の推進により関係 8 団体が共通の目標を持って事業者自らの取り組みを進め、さらに関係主体間の連携に資する取り組みを通し消費者、自治体、関係事業者、NPO や学識経験者等の多大なご協力をいただいたことにより、容器包装 3 R の推進に一定の成果があげられたものと考えます。

当連絡会では、循環型社会の形成に向け、今後とも容器包装の 3 R と関係主体間の相互理解と連携の深化に一層努力してまいりたい所存です。当連絡会および関係 8 団体の活動にご理解とご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、自主行動計画 2025 の推進に変らぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. 事業者自ら実践する3R行動計画の成果

計画項目

下図のとおり、構成八団体ごとに、リデュース・リユース・リサイクルの取り組み目標・項目を設定しています。基準年度は2004年度、目標年度は2020年度です。



5年間の取り組み成果（概要）

- 環境配慮設計指針の策定・運用、びんリユースシステム維持に向けた取り組み、多様なリサイクルルートの調査・支援など、3R推進に向けた取り組みを展開しました。
- リデュース・リサイクルの数値目標は、8素材中、リデュースが6素材で、リサイクルが5素材で目標を達成しました。
- 普及・啓発活動として、環境に配慮した容器包装、リユースびん、リサイクルに関する情報発信に努めました。

1.1 リデュースの取り組み

容器包装には「内容物の保護」「取り扱いの利便性向上」「消費者への情報提供」などの基本的な機能・役割があります。容器包装のリデュースを進めるにあたり、容器包装の基本的な機能を損なわないことを前提に、軽量化や薄肉化、無駄のない形状への変更、コンパクト化など、各団体では、それぞれの素材の特性に応じ、資源使用量や環境負荷削減の取り組みを展開しています。

環境配慮設計の普及

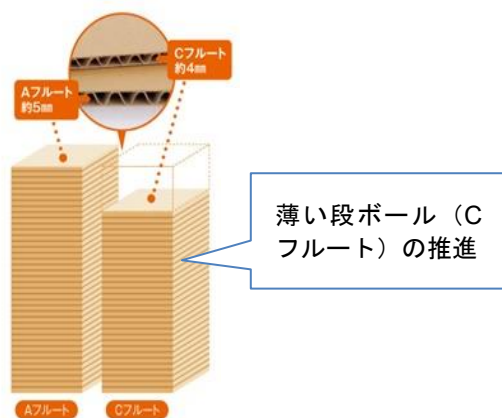
各素材では 2020 年度に向けたリデュース目標を設定し、環境配慮設計の考え方の普及、軽量化や薄肉化、無駄のない形状への変更、コンパクト化など、容器包装リデュースの取り組みを展開しました。

ガラスびん、PET ボトル、紙製容器包装では使用資源の削減、リサイクル容易性といった 3R の考え方を「自主設計ガイドライン」として策定の上、運用を図っています。また、プラスチック製容器包装では国の「プラスチック資源循環戦略」を受け、「プラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針」を改訂しました（同指針は、プラスチック資源循環促進法の成立を受け、2021 年 9 月にさらにバージョンアップしています）。

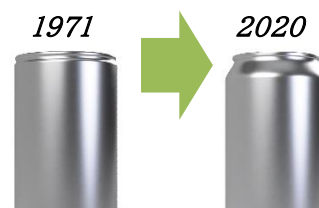
また、各団体では、容器包装の特性に合わせて参考となる事例を「3R 改善事例集」に取りまとめるなどして情報発信を行い、各事業者の取り組みの促進を図っています。



3 R 改善事例集



プラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針 改訂版



アルミ缶の軽量化

数値目標の達成状況

リデュースの実績については、8 素材中 4 素材で目標を上方修正したこともあり、2020 年度目標に向けて着実に目標に近づきつつも、一進一退の状況にありますが、8 素材中 6 素材が目標を達成しました。また、2020 年度の実績については素材によってはコロナ禍の影響が出ているものと思われます。なお、自主行動計画 2020 の期間（2016～2020 年度）中の 8 素材合計削減量は約 520 万トンとなり、第 1 次自主行動計画（2006 年度）からの累計削減量は約 990 万トンに達しました。

内容物の保護など、容器包装の基本的な機能を損なわないようにするため容器包装の軽量化には一定の物理的な限界がありますが、使用資源の削減努力を続けています。

図表 1 リデュースの目標と実績

	2020年度目標 (2004年度比)	2016	2017	2018	2019	2020	備考	目標設定の 考え方
ガラスびん	1.5%の軽量化	1.5%	2.2%	1.2%	1.7%	2.2%		1本(1缶)当たり平均重量の軽量化目標を設定
PETボトル	25%の軽量化	23.0%	23.9%	23.6%	24.8%	25.3%	目標を上方修正 (20%→25%)	
スチール缶	8%の軽量化	7.7%	7.8%	7.3%	8.1%	8.6%	目標を上方修正 (7%→8%)	
アルミ缶	5.5%の軽量化	5.1%	5.3%	5.3%	5.4%	5.8%	2016年度より 算出方法変更	
飲料用紙容器	牛乳用500ml紙 パックで3%の軽 量化	2.5%	2.9%	2.9%	2.9%	2.5%		1㎡当たり平均 重量の軽量化 目標を設定
段ボール	1㎡当たりの平均 重量で6.5%の軽 量化	5.2%	5.1%	5.1%	5.5%	6.1%		
紙製容器包装	削減率14%	11.5%	11.2%	10.7%	13.1%	23.5%	目標を上方修正 (12%→14%)	総重量の削減 目標を設定
プラスチック 容器包装	削減率16%	15.3%	15.9%	17.0%	17.6%	19.2%	目標を上方修正 (15%→16%)	容器包装利用 事業者の業界 ごとに削減量を 算出し設定

図表 2 累計削減量（※）の推移

	千トン				
	2016	2017	2018	2019	2020
ガラスびん	214	239	252	270	290
PETボトル	843	1,093	1,283	1,468	1,645
スチール缶	226	250	273	298	322
アルミ缶	83	93	100	110	117
飲料用紙容器	1.4	1.7	2.1	2.4	2.7
段ボール	2,551	3,015	3,486	3,988	4,544
紙製容器包装	1,621	1,856	2,081	2,356	2,849
プラスチック容器包装	82	88	102	111	115
計	5,621	6,636	7,579	8,603	9,884

※2004 年度を基準とした 2006 年度からの累計

1.2 リユースの取り組み

びんリユースシステム持続・構築のための関係主体との取り組み

ガラスびんは“内容物の香味を吸着しない” “細菌などがつきづらい” “容器の成分が溶出しにくい” などの特性があるため、洗浄すれば何度でも内容物を充填できる、衛生性・安全性に優れたリユースに最適な容器です。

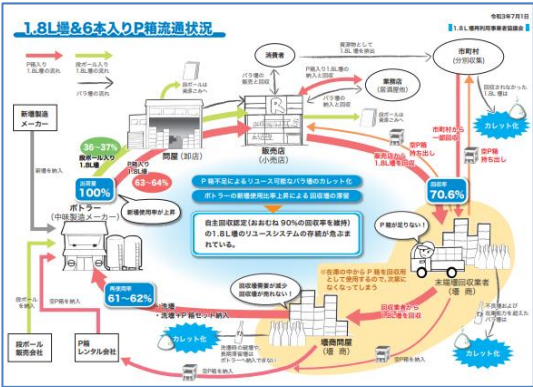
リユース用に製造されたリターナブルびんは、使用後に販売店・びん商等が回収し、洗浄・検査の後、再び中身メーカーが充填し、出荷・販売するリユースシステムで運用されています。このリユースシステムは資源の有効利用のみならず、CO₂ 排出量の少ない環境負荷の少ないシステムです。

自主行動計画 2020 では、びんリユースシステムの持続のため、引き続き関係主体との連携による取り組みを進めました。

びんリユースシステムの持続性確保に向けた取り組み

びんリユースシステムの維持・運営の要であるびん商の取り扱い量の大半が 1.8L 壇（一升びん）であるため、リユースびん全体の回収システムを維持・運営するためにも、1.8L 壇（一升びん）の回収率の向上が重要です。

このため、関係他団体（日本酒造組合中央会、1.8L 壇再利用事業者協議会等）とも連携して 1.8L 壇（一升びん）の回収率を補足するとともに、回収率向上に向けた取り組みを行っています。



リユースびんのフロー

<http://www.returnable-navi.com/shijo/18bin/img/18bin-distribution2021.pdf>

地域に密着して循環するびんリユースシステムの構築

びんリユースの推進には、消費者・自治体・事業者との連携した取り組みが必須であり、「びんリユース推進全国協議会」と連携・協力して、以下のような国の事業への協力や全国各地における自治体や事業者等の関係者と連携した地域型びんリユースシステム構築に向けた取り組みを行ってきました。

図表 3 地域型びんリユースシステム構築に向けた取り組み

年度	取り組み	連携・協力先	環境省委託
2017	九州圏びんリユースシンポジウム開催	びんリユース推進全国協議会 大阪硝子壇問屋協同組合	平成 29 年度容器リユースシステム推進実証事業
	びんリユース推進地域協議会交流会開催		
	招布(まねぎ) 製作支援		
2018	びんリユース推進に向けたステークホルダー会議開催	びんリユース推進全国協議会	平成 30 年度容器包装廃棄物等に係る3R促進及び調査検討業務
2019	びんリユースフォーラム開催	びんリユース推進全国協議会	令和元年度容器包装廃棄物等に係る3R促進及び調査検討業務
	びんリユースの回収拠点の把握・利用促進に向けた調査検討		

1.3 リサイクルの取り組み

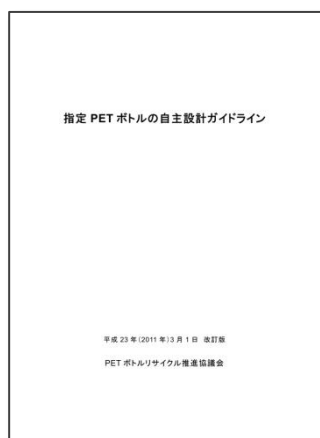
容器包装のリサイクルは、消費者、自治体、事業者といった様々な主体が各々の役割を徹底し、連携していかなければ成り立ちません。世界でもまれな我が国の容器包装リサイクルシステムは、関係各主体がそれぞれの役割に真摯に取り組んだ成果と言えます。

各素材では 2020 年度に向けたリサイクル目標を設定し、設計段階で容器包装のリサイクル適性を向上させる環境配慮設計の推進や、自治体やリサイクル事業者など関係主体と連携した多様な回収ルートによるリサイクルの促進に取り組みました。

事業者によるリサイクル推進の取り組み

リサイクル適性に優れた素材の改善・改良、潰しやすさ・折りたたみやすさの向上や簡素化など、設計段階で容器包装のリサイクル適性を向上させるために、各団体では、前述の「3R改善事例集」の作成や環境配慮設計ガイドラインの作成・普及を図りました。

また使用済み容器包装は、自治体の分別収集・拠点回収、地域団体による集団回収、店頭回収など多様なルートで回収、再資源化されているため、各団体では分別排出を行う消費者への講習会の開催や、回収実施団体への回収機材の提供や表彰など、様々な形で関係主体と連携したリサイクル促進に取り組みました。



指定 PET ボトルの
自主設計ガイドライン



紙パック回収ボックスの提供
(飲料用紙容器)



アルミ缶小・中学校回収
協力者の表彰



ガラスびん再資源化量の拡大に向けた
情報収集と発信

数値目標の達成状況

自主行動計画 2020 で設定した 2020 年度のリサイクル目標は、図表 4 のように 8 素材中 5 素材が当初目標を達成しました。また、2020 年度の実績を見ると、リデュースと同様に素材によってはコロナ禍の影響が出ているものと思われます。なお、リサイクル指標の分子・分母の一覧は図表 5 のとおりとなっています。

図表 4 リサイクル目標の達成状況

素材	指標	2020年度 目標	実 績				
			2016	2017	2018	2019	2020
ガラスびん	リサイクル率	70%以上	71.0%	69.2%	68.9%	67.6%	69.0%
PETボトル		85%以上	84.0%	84.9%	84.6%	85.9%	88.5%
スチール缶		90%以上	93.9%	93.4%	93.2%	93.3%	94.0%
アルミ缶		90%以上	92.4%	92.5%	93.6%	97.9%	94.0%
プラスチック 容器包装	リサイクル率 (再資源化率)	46%以上	46.6%	46.3%	45.4%	46.4%	46.5%
紙製容器包装	回収率	28%以上	25.1%	24.5%	27.0%	26.6%	25.1%
飲料用紙容器		50%以上	44.3%	43.4%	42.5%	41.4%	38.8%
段ボール		95%以上	96.6%	96.1%	96.1%	94.6%	96.1%

図表 5 各容器包装のリサイクル指標の分母・分子一覧

素材	指標	ものの流れ			
		製造・出荷	廃棄・回収	選別・分別	再資源化
ガラスびん	リサイクル率	分母：国内出荷総重量 (出荷量+輸入量-輸出量)			分子：利用事業者に 引渡されたカレット 総重量
P E T ボト ル	リサイクル率	分母：国内販売量 (出荷量+輸入量)			分子：国内・国外再 資源化量
スチール缶	リサイクル率	分母：国内消費量 (出 荷量+輸入量-輸出 量)			分子：国内鉄鋼会社 再資源化量
アルミ缶	リサイクル率	分母：国産缶出荷量+ 輸入缶量-輸出缶量 (塗料を除く)			分子：二次合金メー カー購入量 (組成率 加味。輸出分を含 む)
紙 製 容 器 包 装	回収率		分母：家庭か らの排出量	分子：家庭か らの回収量 (推定)	
飲 料 用 紙 容 器	回収率	分母：飲料用紙バック 原紙使用量		分子：国内飲料 用紙バック回収量	
段ボール	回収率	分母：段ボール原紙消 費量+輸出入商品梱包 用入超分		分子：段ボール 古紙実質回収量	
プラスチック 容器包装	再資源化率		分母：容リ協 排出見込み量		分子：容リ再商品化 量、自主的回収等

1.4 普及・啓発活動の推進

容器包装の 3R を進めていくためには、使用済容器包装の排出者である消費者の理解・協力が欠かせません。各団体では素材の特性に応じ、多様な普及啓発・情報発信活動を展開しました。

容器包装の 3R に関する普及啓発・情報発信

各素材では、以下のとおり容器包装の 3R に関する情報発信・普及啓発活動を展開しました。

- ホームページでの情報発信
- 関係リサイクル団体への表彰
- 出前講座など、児童・生徒向けの環境学習の実施
- マテリアルフロー等の調査・情報提供
- 自治体や関係者との意見交換会

その他環境保全に関する普及活動等

各団体ではポイ捨て・散乱防止のための情報発信やキャンペーン・イベントの実施、自治体の環境関連イベントへの協力などを行っています。

海洋プラスチックごみ問題が地球規模の課題となっていますが、プラスチック容器包装では「プラ推進協・海ごみゼロキャンペーン」を実施するなど新たな取り組みを開始しています。



マテリアルフロー把握のための組成調査
(紙製容器包装)



段ボールリサイクル協議会
会長賞のポスター



散乱防止・美化キャンペーン



小学校での出前授業

2. 主体間の連携に資するための行動計画の成果

計画項目

下図のとおり、「主体間の連携に資するための行動計画」は「3 R 推進団体連絡会の取り組み」と「各団体に取り組む共通のテーマ」の2本柱となっています。

当連絡会としては、容器包装 3R に向けた様々な普及啓発活動、他主体との共同事業に取り組みました。他方、「各団体に取り組む共通のテーマ」は、3 R 推進団体連絡会が設定したテーマに沿って、各団体が個別に連携推進に係る活動を展開しました。

2 主体間の連携に資するための行動計画（2016 年 6 月策定）

○ 3 R 推進団体連絡会の取り組み

■ 情報共有・意見交換の充実

- ・ フォーラム、セミナーの開催
- ・ 地域活動への支援と交流促進

■ 広報・啓発事業の継続

- ・ 各種情報媒体による広報・啓発
- ・ 展示会への出展
- ・ 発信・共有すべきコンテンツの充実

■ 調査・研究事業の実施

- ・ 消費者意識調査の実施
- ・ 学識者との共同研究の推進

○ 各団体に取り組む共通のテーマ

■ 情報提供・普及啓発活動

■ 各主体との情報共有・意見交換

■ 調査・研究

5 年間の取り組み成果（概要）

- 市民、行政、学識者等との意見交換や市民リーダーとの交流事業を継続することができました。このような経験の蓄積により相互の情報共有や理解が進み、容器包装 3R をめぐる主体間連携の深化の一助となったものと考えます。
- 広報・啓発事業や調査・研究事業においても、これまでの取り組みを活かしつつ、情報コンテンツや調査内容の充実を図ることができました。
- コロナ禍の影響があった 2020 年度は、一部の事業においてプログラムの変更やオンラインによる対応を余儀なくされましたが、関係者の皆様と協力して対応にあたった経験は、今後の取り組みに広がりを与えるものになると考えます。

図表 6 は、過去 15 年間の主な主体間連携の取り組み年表です。

次ページより、自主行動計画 2020 の期間（2016～2020 年度）中に実施した取り組みを紹介
します。

図表 6 主体間連携のための共同の取り組みの実施状況

年度	第1次自主行動計画					第2次自主行動計画					自主行動計画 2020				
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
各主体との交流・意見交換	3 R リーダー交流会					地域でのリーダー育成									
						川崎市	川崎市	川口市	川口市 国分寺市 相模原市	さいたま市 越谷市	千葉市 松戸市	荒川区	新宿区	町田市	町田市 柏市
	容器包装 3 R 連携市民セミナー														
	東京都	北九州市 川崎市	京都市	仙台市	名古屋市	福岡市	札幌市	東京都							
						意見交換会（容器包装 3 R 交流セミナー）									
								東京都 富山市 岡山市	長野市 松山市 名古屋市	静岡市 福井市 さいたま市	千葉市 東京都 福岡市 長崎市	札幌市 鳥取市 仙台市 大阪市	山形市 金沢市 高知市	福岡市 京都市 秋田市	函館市 松本市
普及・啓発	容器包装 3 R 推進フォーラム														
	横浜市	神戸市	東京都	京都市	さいたま市	名古屋市	仙台市	川崎市	品川区	北区	荒川区	中央区	杉並区	千代田区	オンライン
	エコプロダクツ展（2016 年からエコプロ展）への出展														
	3R推進全国大会への出展					3 R 推進全国大会等への出展									
						東京国際包 装展出展									オンライン
調査・研究	小冊子「リサイクルの基本」作成・配布・改訂														
	AC 支援による 啓発事業														
	ポスター 作成	ホームページ開設・運用													
						容器包装 3 R 制度研究会					神戸大学との共同研究				
					消費者 意識調査	消費者 意識調査					消費者 意識調査				

2.1 各主体との交流・意見交換

(1) 「容器包装 3R 交流セミナー」の実施

地域単位で意見交換会を開催し、情報共有・意見交換を深めていきました。

当連絡会では2013年度より3R活動推進フォーラムとの共催で、意見交換会「容器包装 3R 交流セミナー」を年3回程度ずつ全国各地で開催してきました。意見交換会は市民・NPOや自治体と事業者の直接対話を通して、相互理解と連携・協働への着実なステップを図り、主体間連携を進めることを目的としています。

2020年度までの開催回数は合計で21回、自主行動計画2020の期間（2016～2020年度）では16回となっています。各意見交換会では、省庁からの基調報告や地域自治体における取組報告、事業者の取組事例紹介といった情報提供の後、グループに分かれて今後の容器包装 3R のあり方等に関する活発な討論、意見交換を行っています。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2020年度の開催回数は2回となり、2021年度は予定していた3市（奈良市、青森市、鹿児島市）での開催が中止となっています。

図表 7 これまでの市民・自治体と事業者の意見交換会の参加者総数

年度		市民・NPO等	国・自治体	事業者	合計
第2次自主 行動計画	2013年度	27	44	51	122
	2014年度	27	43	60	130
	2015年度	29	29	61	119
自主行動計 画2020	2016年度	33	48	54	135
	2017年度	24	43	56	123
	2018年度	27	37	51	115
	2019年度	22	34	75	131
	2020年度※	21	27	43	91
合計		210	305	451	966

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2ヶ所でのみ開催



函館市での意見交換会（2020年度）



松本市での意見交換会（2020年度）

(2) 3R市民リーダー育成プログラム

3R市民リーダーの地域活動等を支援

「3R市民リーダー育成プログラム」は、都内の消費者リーダーの方々と2011年度から検討し作り上げたプログラムで、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット（以下、「元気ネット」という。）を事務局として進めています。一般消費者への「3R」の伝え方やイベント等で使える講座プログラムを、地域の3R市民リーダーの方々にご活用いただきリーダー育成に役立て、伝える人を増やしていこうという事業です。

2016年度以降、千葉市、松戸市、荒川区、新宿区、町田市にて地域の行政の協力得ながら3R市民リーダーの育成講座やイベントの開催などにより、新規リーダーの育成を継続的に実施しています。

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症拡大により町田市におけるプログラムのスケジュールを調整し10月に実施、新たに柏市で2021年2月に実施するなど、引き続き感染拡大防止に留意しながら事業を展開していく予定です。

また、これまで協働してきた各地の3Rリーダーの皆さんを対象に、最新情報の提供や相互交流を行うスキルアップ研修会を2020年7月に実施しました。さらに、自治体の清掃・リサイクル事業担当者との容器包装の3R情報交換会を2021年2月に実施しました。



3R市民リーダー育成講座 実践発表（町田市）

2021年度のトピックス

新たな地域における新規3R市民リーダー育成事業の展開は、新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ調整中で、市民リーダーの募集は自治体を通して行うこともあり、7月に自治体向け容器包装の3R情報交換会をWEBとのハイブリッドという形で実施しました。3R市民リーダースキルアップ研修は2022年2月に行う予定です。



WEBと実会合のハイブリッドによる自治体担当者との情報交換会

(3)容器包装 3 R 推進フォーラム

のべ 3,000 名近くの市民、行政関係者、学識経験者、事業者との交流を実施

容器包装 3 R 推進フォーラムは、容器包装 3 R や分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携を目指したらよいかを話し合い、方向性を共有することを目的としています。

第 1 次自主行動計画から通算で 15 回のフォーラムが全国各地で開催されており、のべ 3,000 名近くの市民、行政関係者、学識経験者との交流・意見交換が持たれました（図表 8）。



第 13 回フォーラム（2018 年度）
基調講演



第 14 回フォーラム（2019 年度）
パネルディスカッション

図表 8 容器包装 3 R 推進フォーラムの開催状況

回・開催年月			開催地	テーマ	参加人数
第 1 次自主行動計画	第 1 回	2006 年 10 月	横浜市	消費者・自治体との「協働」による容器包装リサイクルのよりよい未来をめざして	241
	第 2 回	2007 年 9 月	神戸市	多様な連携と協働による社会的効率の高いシステムを考える	206
	第 3 回	2008 年 10 月	東京都港区	消費者、自治体、事業者の連携による容器包装 3R の具体的取組をめざして	365
	第 4 回	2009 年 10 月	京都市	自治体、事業者、市民の連携による容器包装 3R の取組推進へ	236
	第 5 回	2010 年 10 月	さいたま市	よりよい容器包装リサイクル制度を目指して	178
第 2 次自主行動計画	第 6 回	2011 年 10 月	名古屋市	容器包装リサイクル法の成果と課題	171
	第 7 回	2012 年 11 月	仙台市	容器包装 3R の将来	122
	第 8 回	2014 年 2 月	川崎市	容器包装 3R の先進事例	135
	第 9 回	2014 年 12 月	東京都品川区	容器包装 3R のよりよい連携・共同に向けて	138
	第 10 回	2015 年 10 月	東京都北区	容器包装 3R の持続的な推進のために	215
自主行動計画 2020	第 11 回	2016 年 11 月	東京都荒川区	容器包装の 3R と資源循環	180
	第 12 回	2017 年 10 月	東京都中央区	持続可能な容器包装の 3R を目指して	164
	第 13 回	2018 年 10 月	東京都杉並区	これからの資源循環と容器包装	161
	第 14 回	2020 年 1 月	東京都千代田区	プラスチック資源循環戦略と海洋ごみ問題～現状と今後の見通し	188
	第 15 回	2021 年 1 月	WEB 開催	持続可能な容器包装のための 3 R とライフスタイルを目指して	296
					計 2,996

第15回フォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2021年1月28日～2月1日にWEB上での開催となりました。東京大学高村ゆかり教授に「プラスチック問題から3Rを考える」と題する基調講演をいただいたほか、経済産業省、環境省、農林水産省からは容器包装3Rに係る政策動向や行政事業について、自治体、市民・NPO、事業者のご関係者からは容器包装3Rの取り組み事例について、それぞれご報告をいただきました。

2021年度のトピックス

第16回のフォーラムは2022年1月25日、「サステナブルな容器包装のための3Rと消費行動」をテーマに、東京都渋谷区のSYDホールにて開催予定です。



2022年1月25日開催予定の
第16回フォーラムチラシ

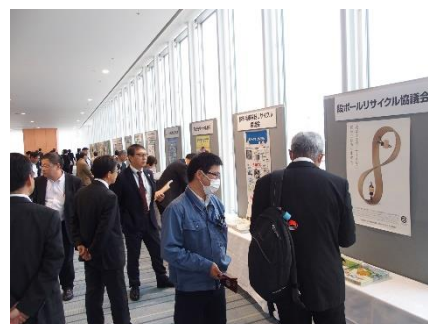
2.2 広報・啓発事業

(1) 展示会への出展・イベントへの協力

エコプロ展などで普及啓発活動を展開

毎年度、日本最大級の環境イベントであるエコプロ展に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展しています。それぞれの団体がブース出展を行うほか、連絡会の共通ブースでは、連絡会としての取り組みのパネル展示等を行い、八団体ブースを巡るクイズラリーも行いました。

また当連絡会は、環境省、地域自治体、3R活動推進フォーラムが主催する「3R推進全国大会」や（公社）全国都市清掃会議の春季・秋季総会等へのイベントにも例年出展し、情報発信しています（2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、これらのイベントは中止となっています）。エコプロについては、2020年11月25日～28日の4日間、オンラインで開催された「SDGs Week Online 2020」のエコスタディールームに出展しました。



3R推進全国大会への出展(2018年度)



エコプロ 2019 への出展

2021年度のトピックス

オンライン開催となった「第15回3R推進全国大会」（主催：環境省、和歌山県、3R活動推進フォーラム）において、当連絡会は、配信拠点となった和歌山市のホテルアバローム紀の国にてパネル出展を行いました。また、2021年12月8日から3日間、東京ビッグサイトにて開催されるエコプロ2021に出展します。

(2)情報冊子の改訂・配布

情報冊子を改訂し、容器包装3Rの最新情報を掲載

3R市民リーダーとの共同作業の成果である小冊子「リサイクルの基本」は、容器包装のリサイクルについて全ての容器包装を網羅した分かりやすい情報・啓発冊子としてご好評をいただいています。本冊子ご希望の自治体、市民団体等には無料で配布しており、これまでの配布部数は1万4千部以上となっています。当冊子は自主行動計画2020の期間中に2度の改訂を行い、データの更新と表記の見直しを図りました。

また、当連絡会の紹介と容器包装3Rの基礎情報を掲載した啓発パンフレット「未来へとつながる3R社会をめざして」も、同様に改訂を行いました。

両冊子とも、本連絡会ホームページよりダウンロード可能です。



啓発パンフレット
未来へとつながる3R社会を目指して



パンフレット リサイクルの基本

(3)ホームページの公開等

ホームページやポスターを通じた情報発信

当連絡会の活動、フォローアップ報告などの情報を掲載するホームページは2017年度にサイトリニューアルを行いました。また、連絡会としての共通ポスターを作製し、各団体を通じて自治体や消費者団体に配布しました。



3R推進団体連絡会ホームページ



共通ポスター

2.3 調査・研究事業

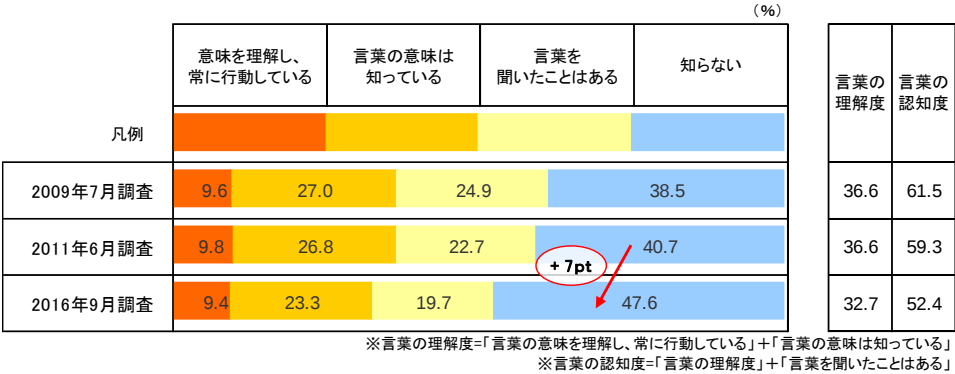
(1)消費者意識調査

消費者の容器包装 3 Rに関する意識・行動を継続的に把握

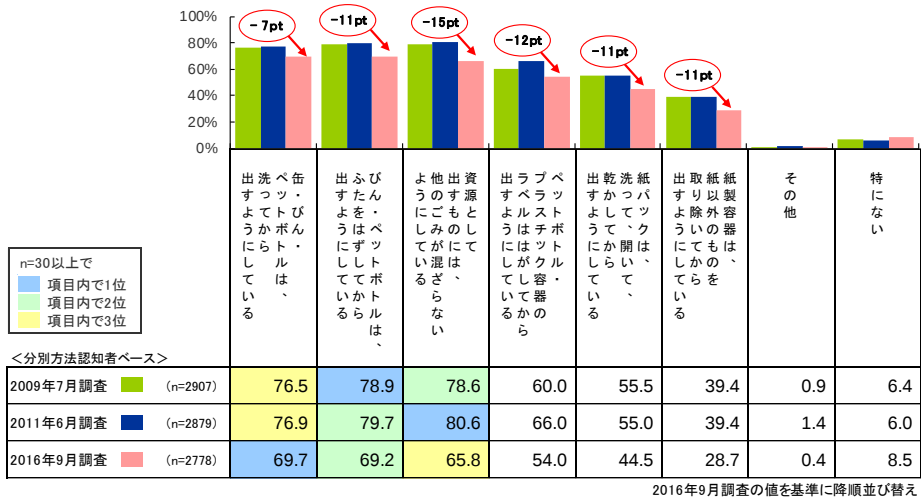
当連絡会では、定期的に消費者意識調査（インターネット調査）を実施しています。2016 年度には 3 度目となる調査を実施し、容器包装の 3 Rに関する意識・行動の実態、各種法制度の認知度等を調査・分析しています。

例えば「3 R」という言葉に関する認知度について、2016 年の調査では「知らない」とする回答が 2011 年調査より 7 ポイント増加しています。また、容器包装の分別排出時の取り組みの実施状況についても、2016 年調査は過去 2 回の調査よりも実施度が低下している状況が明らかになりました。

【「3 R」という言葉の認知度】



【容器包装の分別排出時の取り組みの実施状況】



2021 年度のトピックス

自主行動計画 2025 の初年度となる 2021 年 8 月、第 4 回消費者意識調査を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大が容器包装の利用等に与えた影響や、2021 年 6 月に成立したプラスチック資源循環促進法に関する意識・意向に関する質問などを新たに追加しています。

(2)神戸大学との共同研究

アジアにおける資源循環、生産者責任のあり方に関する研究支援

アジアを中心とする新興国の経済発展や資源需要の増大により、国際的な資源循環体制の構築が重要な課題となっています。当連絡会では、2015 年度より神戸大学大学院経済学研究科（担当教授：石川雅紀氏）に、アジアにおける資源循環、生産者責任のあり方に関する調査研究を委託し 2018 年度まで継続的に研究支援を行いました。

研究事業においては、中国やタイなどの研究者との交流プラットフォーム構築に向けセミナーや講演会を開催したり、訪日研修団の受入を行うなどの取り組みが展開され、アジア地域における環境政策の現状や、拡大生産者責任の国際的展開のための協調・協力の必要性などが知見として共有されました。



ライデン大学で開催された Waste in Asia

3. 自主行動計画 2025 の策定・公表

これまでの 3 次にわたる自主行動計画の成果を踏まえ、より一層の 3 R の推進に取り組むべく、2021 年 4 月に「容器包装 3 R のための自主行動計画 2025」（目標年度：2025 年度）を策定、公表しました。

自主行動計画 2025 では、取り組み方針として

- **基本方針 1 素材の特性に応じた容器包装 3 R の推進**

引き続き各素材が取り組むべき方向性や目標を定め、素材の特性に応じたライフサイクル全体の最適化を目指し、容器包装の 3 R に取り組む。

- **基本方針 2 主体間連携の深化**

市民・NPO、行政、事業者、学識経験者など様々な主体との意見交換や協働を通じ、主体間連携を深化させる。

を掲げ、事業者自らによる 3 R の推進、及び主体間連携の取り組みの推進を図ることとしています。

自主行動計画 2025 は当連絡会のホームページに掲載していますので、是非ご参照ください。

(<http://www.3r-suishin.jp/?cat=19>)



容器包装 3R のための自主行動計画 2025

Ⅱ 団体別 2020 年度フォローアップ結果

1. ガラスびん 3 R 促進協議会	20
2. P E T ボトルリサイクル推進協議会	26
3. 紙製容器包装リサイクル推進協議会	34
4. プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	38
5. スチール缶リサイクル協会	43
6. アルミ缶リサイクル協会	48
7. 飲料用紙容器リサイクル協議会	55
8. 段ボールリサイクル協議会	63

7. 飲料用紙容器リサイクル協議会

飲料用 紙容器リサイクル協議会は、全国牛乳容器環境協議会(容環協)、印刷工業会 液体カートン部会、一般社団法人 全国清涼飲料連合会、一般社団法人 全国発酵乳乳酸菌飲料協会、一般社団法人 日本果汁協会、酒類紙製容器包装リサイクル連絡会の6団体で構成し、飲料用紙パック(アルミ付を除く)の3Rを推進しています。なお主体間連携等の活動は主に容環協が担っています。

牛乳パック リデュースの取り組み

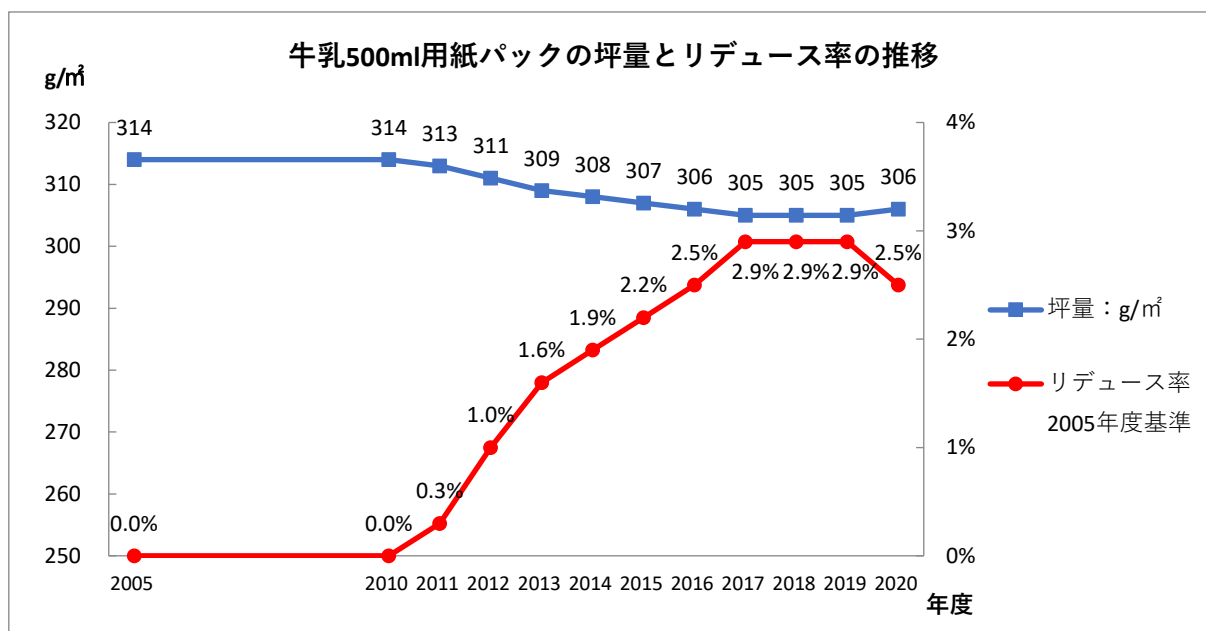
紙パックのリデュースは、1987 年から 2002 年の間に約 5%の軽量化を実現しています。1000ml 容器については品質への影響が危惧されることから、さらなる軽量化は難しいと判断し、「500ml の牛乳パック」に限定した軽量化に取り組んでいます。中身飲料の品質に影響を与えず、運搬時にも耐えられる強度で安定した製造ができる紙パックとして、2011 年 9 月から軽量原紙の使用を進めています。2020 年度は 2005 年度比 2.5%の軽量化(原紙仕様レベル)となりました。2020 年度は本取組みの対象である 500ml 紙パックの販売量が減少しましたが、この減少分が主に軽量原紙使用製品だったことから、相対的に軽量原紙使用製品比率が下がり、全体の平均坪量を押上げました。この数年間でこれまで以上に軽量な原紙を使用するなどの取り組みも行われており、必ずしも坪量の高い原紙に戻っているということではありません。

[紙パックのリデュースについて]

- ・ 1987 年～2002 年、約 5% 軽量化を実現
対象; 1000ml 紙パック、500ml 紙パック

[500ml 牛乳パックのリデュースについて]

- ・ 2011 年 9 月、500ml 牛乳パックのリデュース取り組み開始



紙パックリサイクルの取り組み

2020 年度を到達年度とした行動計画の基本として、容環協は 環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて、

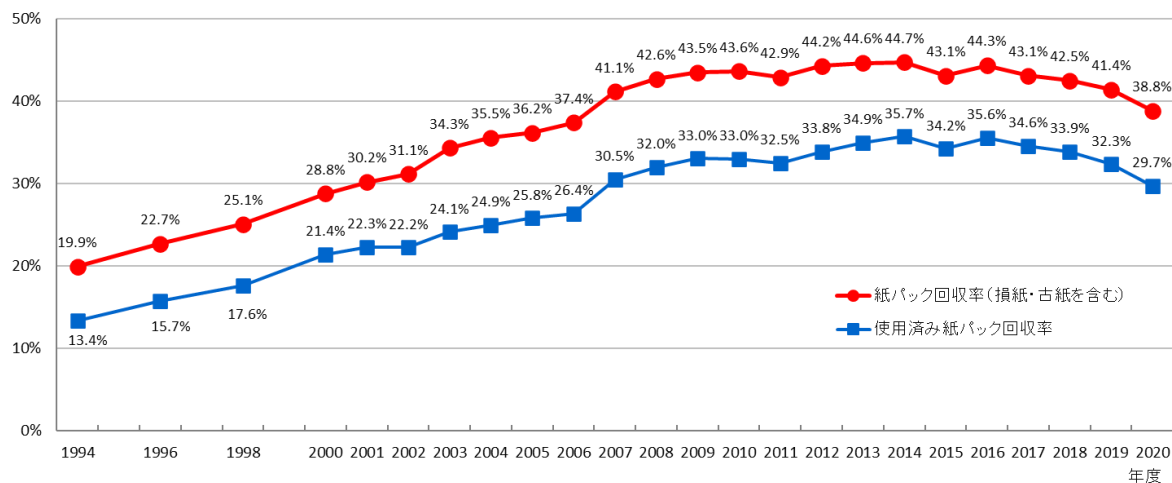
- ① 2020 年度までに紙パックの回収率を 50%以上に高め、紙パックのリサイクルを推進することで環境負荷をさらに削減する。
- ② 紙パックの回収率向上活動と併せて、環境負荷が少ない紙パックの環境特性を社会に正しく伝える。
- ③ 紙パックの回収率向上活動を通して、資源や環境を考え、行動する人々を増やす。

ことを定めています。

2020 年度の回収率は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため学校給食用牛乳の回収が中止されるところがあったり、市区町村への登録団体による集団回収の実施回数が減少したりしたことなどの影響を受けて、両指標（下図）ともに前年を下回りました。

〈 紙パック回収率 推移 〉

「紙パック回収率」は、家庭、学校、店舗、事業所などで発生する「使用済み紙パック」と工場内で発生する「損紙」（紙パック工場や飲料充填工場でのロスなど）・「古紙」（充填後に廃棄された紙パック）を合算した回収率です。



紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

① 紙パックリサイクル促進 意見交換会

毎年2月に年間活動実績の報告と紙パックリサイクル促進を目的とした意見交換会を開催しています。消費者、市民団体、国、自治体、製造・販売・回収・再生事業者・その他のサプライチェーン関係者など、ステークホルダーからの意見を翌年度以降の活動に反映させています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オンラインで実施しました。全国から約60名の参加があり、課題を共有しました。



紙パックリサイクル促進意見交換会
(オンライン+会議室)

② 様々なイベント等への参画

「エコライフフェア」「エコプロ」などの環境イベントに出展し、紙パックについて正しい理解のためのコミュニケーションを進めています。イベントではクイズを交え、紙パック原料となる木材が生長する森林の管理の方法や、紙パック分別排出のポイントについての説明を行っています。

オンライン開催となった2020年エコプロでは、紙パックリサイクルについてのセミナーを行ったほか、子どもや親子、小中学校生向けの「エコスタディールーム online」に動画により、紙パック回収活動の状況やリサイクルの方法などについて紹介を行いました。



「エコスタディールーム online」に出展した動画で
小学校での紙パック回収事例を紹介

③ 地域のイベントに協賛

全国各地の諸団体、自治体、容環協会員が行う環境イベント等に協賛して、クイズパネルなどの啓発資材の貸し出しや「1リットル紙パック6枚とリサイクルトイレットペーパー1ロールを交換」等の企画を提供しています。



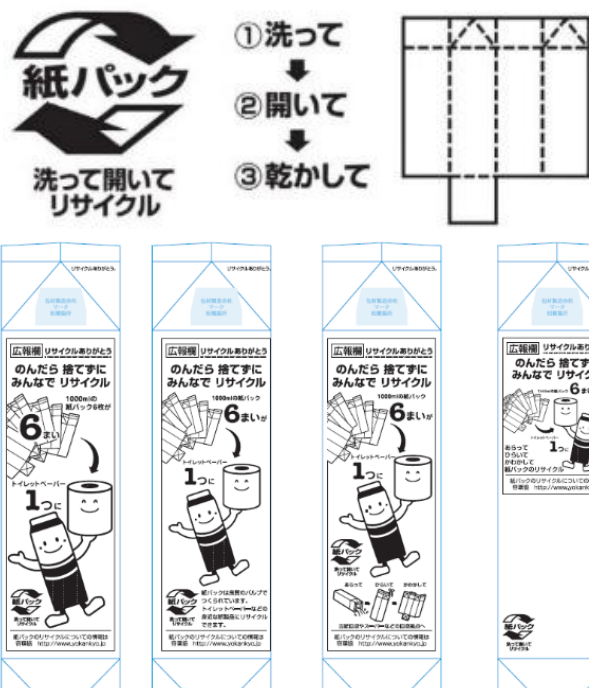
イベント支援グッズの一例

回収率向上のための啓発

① 紙パックマークや環境メッセージの浸透

飲料用紙容器の識別マークである「紙パックマーク」と、紙パックのリサイクルルールなどを示した「環境メッセージ」を紙パックの広告欄に表示する取組みを行っています。2020 年度には従来から使用してきているデザインに加え「1000ml の紙パック 6 枚でトイレットペーパー1つにリサイクル」されることを訴求したデザインのものを新たに作成しました。「環境メッセージ」は容環協ホームページにも掲載しています。

「環境メッセージ」
新デザイン



② 紙パック回収ボックスの提供

2020 年 3 月末・時点累計で 24,796 個の回収ボックスを提供しており、また、2021 年度は 9 月末までで 143 個を無償提供しました。面積が小さい店舗や事務所向けとしてスリムタイプの回収ボックス（→右側）も提供しており、東京都多摩市の協力のもと市内の一部コンビニ店に設置いただき、市民にとっての身近な分別排出場所となっています。



ノーマルタイプ



スリムタイプ

お申し込みは以下の事項を記入し
メール、または FAX で下記までお申し込みください

FAX : 03-5629-4136

メール : otoiwase@spin-inc.co.jp

- ①学校名・団体名
- ②担当者名
- ③連絡先（電話、FAX、メールアドレス）



- 学校
- 企業
- 施設
- 自治体
- 乳業
- 作業所
- 団体
- 保育園・幼稚園
- 小売
- データなし
- その他

2020-2021 回収ボックスの配布場所

紙パックの回収・再生インフラの整備支援

市区町村別の牛乳パックの回収区分や牛乳パックを古紙回収する業者の情報を調査し、地域ごとの回収インフラの差を少なくすることを目指した活動を展開しています。

次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

① 牛乳パックリサイクル出前授業

資源循環の大切さを理解していただくため、牛乳パックのリサイクルの普及促進のための活動を行っています。2021 年度は新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、川崎市の市民団体（3R 推進プロジェクト・グリーンコンシューマーかわさき）と川崎市環境局（減量推進課、地球環境推進室）と協力し、川崎市の小中学校で出前授業を実施しました。資源循環だけでなく SDGs や地球温暖化などの環境問題など広い視点で話し合いを行いながら、こうした課題に対し自分たちでやれることは何かを考えるというスタイルで行っています。



川崎市立虹ヶ丘小学校での授業

② 先生・栄養士との協力体制の構築

牛乳は学校給食に不可欠なものです。学校給食を通じた環境学習支援を目的に、学校の先生や栄養士さん向けの研修への講師派遣を行っています。学校給食が環境問題や資源循環にどう関わっているかの説明から始め、飲み終わった後の紙パックをリサイクルする上での課題について事例を示しながらお伝えしています。2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント制限がある中、オンラインにて東京都荒川区内の小中学校の先生・栄養士さんの研修に参加しました。



関係者以外はオンライン参加

③ 「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」への協賛

紙パックを使ったものづくりを通して、未来を担う子どもたちの気付きや理解に貢献したいとの思いから、環境学習支援の一環として、本コンクールに協賛しています。毎年約2千作品の応募をいただいております。表彰式は例年12月に開催されるエコプロで行っていますが2020年度は表彰式は中止とし、代替開催となった「エコスタディー ルーム online」で動画による入賞作品の紹介を行いました。



最終審査の様子



④ 学乳パックの回収率向上

学校給食用牛乳の飲用後のパック（学乳パック）のリサイクルを促進するため、リーフレットを作成しています。リサイクルが難しいと言われる「手開き」「洗浄」「保管」などについて、Q&A形式で記載しています。また、実際に学乳パックのリサイクルを実施している学校の事例を具体的に示し、分かりやすい資料としています。



全国牛乳容器環境協議会

活動への理解促進、活動の公表と評価

① 年次報告書

2004 年から毎年、年次報告書を作成しています。
容環協の 1 年間の飲料用紙容器リサイクルに関連する活動をまとめるとともに、さまざまなステークホルダーの取組みを紹介しています。

さらに詳しい情報は
全国牛乳容器環境協議会ホームページ
<http://www.yokankyo.jp/>



2022年 4月1日時点

全国牛乳容器環境協議会 役員名簿

	役職	氏名	所属・役職
1	会長	原田 裕司	(株) 明治 生産物流プロセス戦略本部長 兼 品質本部・ものづくり戦略本部管掌
2	副会長	柳田 恭彦	森永乳業(株) 常務取締役常務執行役員 生産本部長
3	副会長	井上 剛彦	雪印メグミルク(株) 取締役常務執行役員
4	副会長	上田 晃司	日本テトラパック(株) 取締役副社長 営業統括
5	副会長	大林 保仁	日本製紙(株) 常務執行役員 紙パック営業本部長
6	常務理事	遠藤 雅人	一般社団法人 日本乳業協会 常務理事
7	理事	坂口 光一	一般社団法人 日本乳業協会 専務理事
8	理事	川崎 浩	全国乳業協同組合連合会 専務理事
9	理事	林 雅典	一般社団法人 Jミルク コミュニケーショングループ 部長
10	理事	松久 浩二	よつ葉乳業(株) 常務取締役
11	理事	佐伯 吾郎	西武酪農乳業(株) 代表取締役会長
12	理事	川口 稔	北越パッケージ(株) 取締役 営業本部長
13	理事	田村 亮一	石塚王子ペーパーパッケージング(株) 代表取締役社長
14	理事	新居 善次	凸版印刷(株) 生活・産業事業本部 パッケージソリューション事業部 第一営業本部長
15	理事	山内 正己	東京製紙(株) 容器事業部長
1	監事	木下 善文	大日本印刷(株) Lifeデザイン事業部 APセンター センター長
2	監事	今井 哲哉	協同乳業(株) 取締役

赤字：変更